水源禅師法話集 70

（2016 年 10 月 15 日　東京法話会）

2018 年 3 月 30 日

一乗禅の会

カッチン　州　お話するお釈迦様　ミヤンマー

目次

質疑応答……1
お釈迦様はマガタ語のパーリ語で話された……1
瞑想のやり方……2
ヴェーダナー（受随観）……3
6つの学校の人とは反対側にお釈迦様は座る……5
仏法僧に深く帰依し、静かな環境で心を持って行けば必ずや浄土に生まれる……6
「10の完全なる教え、仏の教え」……7
海印海潮禅……8
間違った隊長の教えを聞いて大変な事になった500人・その隊長はデバダッタ……9
本当に心からブレずに修行したら、必ずや浄土に生まれ、一切の苦しみは消える……11
「惑わされず、法に出会ってください」……13
そこに落ちない様に観音様におすがりして、一歩一歩生きていく……14
法を得ようといくらやっても出来ず、ギブアップして心が振動して預流れ果に……15
「禅即浄土」「印光大師」……16
蟻さんみたいに生きるのか？心の修行で死んで行くのか？そこを考えて下さい……18
理論をはるかに超えた教え・仏の智慧……20
極限の小さな中に全宇宙がスポッと入るという事を体得する……21
心の修行がなければ結果的には幸せが感じられない……22
お釈迦様の正式な法随観、病気を治す受随観　そして守護神……24
まずは一体何が本当なのか？深く研鑽して下さい……26
観音経とデバフォーム……28

質疑応答

お釈迦様はマガタ語のパーリ語で話された

【水源師】

何回も私が言いますが、何故漢文でお経を読まずに、パーリ語で言うのかという事は、お釈迦様がこの言葉でお話したからです。仏の言葉というのは想像を絶する超宇宙的な響きなのです。実は。サンスクリット語で、お釈迦様は話していない。でもそれが公式な、その時代の公式用語であった訳です。国々の王国の外交官とか。それが正式な言葉であって、ラテン語とサンスクリット語、この２つが最も太古の時代に続く。ラテン語はハイパーボレア（Hyperborea)、ロシアの忘れ去られた「アルカイム(遺跡)」という、「アン・ヌキ」という「アナヌキ」という街がありました。「アナヌキ【Sumeriaの伝説： Anu・nna・kiー NIBIRUの天界より地球に来た五十人の宇宙飛行士の街】」という色々な伝説が伝わっていますけれど、全部繋がっています。だから、全て真言は音（オン）で始まるけれども、ロシア語もまた音（オン）で、その言葉から始まっている。

ただ、お釈迦様はその言葉ではなく、マガタ語のパーリ語でお話して、これには意味がある訳です。深い意味があって、そこで生まれて、この言葉でお話しされたという。また、これは瞑想していけばね、サンスクリット語とか漢文の言葉よりも非常にこの心に響く凄い言葉があります。それで、私も南伝のスリランカとかミャンマーとか、タイとかね、そういう国のお坊様方を非常に尊敬しています。また、ボディーダルマ様が来た中国の方の北伝のお坊様、一生懸命解らない中やって、そこまで到達したという事に又尊敬しています。それでまた、チベットはチベットで凄い行に達しています。

だから、それぞれが実は繋がっているのだけれども、一つも分断される事はない訳です。だから、このジャータカ物語の原点はチベットにも書かれているし、また大乗にも書かれて。最も大事な事を南伝にもチベット経典にも大乗経典にも書かれています私の置かれている立場で、英語で経典を追跡出来るから非常に楽な訳です。宗派、宗派と逆に分断すれば、非常に難しく解らなくなってしまうと思います。そこが落とし穴になっているようです。

それはそれで良いのだけれど、そうすればお釈迦様の言っている「浄土」に行くのは難しい。行けなくなるという事をお釈迦様は言っている。「誰でも浄土に行ける」とお釈迦様が言われるところは「私の言葉を信じてやれば、全てこの次生まれる所は、浄土に生まれる」と。または天界。「四悪道には絶対に生まれません」と、お釈迦様は言明しているのだから。ただ「これ以外の方法で、さも本当であるという事が、私が死んだ後沢山出て来ます」と言われておられます。その時は、沢山のこれしてはダメ、あれしてはダメという「一杯戒律が出来た場合には、法が消えてそこには私の教えがありません」と言っておられます。そこのところを私は何回も言って、戒律、戒律ばかりやった

ら瞑想は出来ませんよ！という事は最初から言ったはずです。皆さん。同じ事をお釈迦様が言っておられます。

瞑想タイム

瞑想のやり方

【水源師】
時間がもったいないので 15 分、15 分それぞれの瞑想でして頂いて、そこで第一回 15 分やってどういう状態か聞いて、第二回目も 15 分やって聞いて、最後良かったら 30 分続けて、今度会うまで皆さんそれで頑張って貰うと。出来れば、今回はちょっと今までよりももっと深く瞑想出来る様な教科にしたので、来年は出来れば参加して貰えれば、お釈迦様の法にもっと近づけると思います。まず 15 分最初に瞑想しますけれど、瞑想の仕方について何かありますか？

【参加者】
足の組み方は？

【水源師】
組み方は半跏で結構です。もしそれで良かったら。今まではどういう風にされていましたか？

【水源師】
半跏で法界定印で。念仏とか時々唱えてたりもしています。

【水源師】
それも良いです。それはアナパナサティという手法で、念仏でサティと言うのはマインドフルという「念」ですね。念を深く入れば非常に宜しいです。念仏はどの念仏を唱えますか？

【参加者】
阿弥陀様です。

【水源師】
阿弥陀様、それは非常に宜しいです。今回は、阿弥陀様を唱えなくても、海印海潮禅をやったら全て阿弥陀の国に生まれる事が決定しました。大変な事ですよ。

【参加者】
海印海潮禅とは？

【水源師】
そういう事も紹介されていないでしょう？だから今回はそういう手法でやったら、全て余す事なく全て浄土に生まれる事が決定。というのは、私は第四禅定やっていますから、ちゃんと観える訳です。それまでは、気楽に座っても良いです。座れない場合は椅子でも良いです。椅子で座れない場合は寝ても良いです。そういう風に、友人とか、楽々でやれるように。要は、心の持ち方で、何処が大切か今日お話します。

瞑想タイム

ヴェーダナー（受随観）

【水源師】
何か瞑想でちょっとつっかかるか、何か質問あれば。良いですか？遠慮なく。

【参加者】
ヴェーダナーをやっていたのですが、最初の感覚を観る所が…。

【水源師】
中ですね。息が入ったり出たりする時に、この鼻の中で、鼻毛とか鼻の中の皮膚に触りますから、その時に熱くなったりとか、又は冷たくなったりとか、汗ばむ、またはピリピリすると。その一つの感覚、一番強い感覚をここの中で完全に掴みます。中で、鼻の中で。その鼻の中で掴んだ感覚を今度は外に出します。外。鼻の外。それがしっかり確定したら、今度はこっちの方に移して行きます。解りました？ここですよ。今度最後にここを縮めます。縮めて、そしたら非常にピリピリする時にニミッタが発生しますけれど、そっちは観ません。感覚だけ。それをここの上に持って来ます。それをじっと下ろして行きますけれど、ここでも非常にニミッタが発生しますけれど、そっちには行かない。感覚だけ。ヴェーダナーだから感覚だけでずうっとやって行く様にしてください。

【参加者】
鼻の表面の方に先に感覚が出たのですけれど、順番が違いますか？

【水源師】
いや、中。中から。必ず中から。ここの感覚よりも中は非常に繊細なのです。だから

ちょっとでも触れば、ピリピリ来るはず。それくらい中は非常に繊細なシステムになっています。ですから、そこでしっかりした感覚が出るのが正常であって、逆に外に感じるというのはそこを調整する必要があります。というのは、体はそういう風に出来ていますから、そういう風にしない場合には必ず将来ここから病気が発生します。ヴェーダナーは涅槃に行く手法であっても、副産物として全ての病を消してしまいますこれくらいお釈迦様の教えは凄い事なのです。だからサティパッターナどれでも良い訳です。何かあります？

もし、赤ちゃんがいて、ちょっとあれだったら、全然遠慮なく静かに外に出てかまいませんから、くつろいだ感じで、こうくつろいだ座り方で良いです。15 分やってみて、上手く行けばそのまま。ただ、奥さんの場合は赤ちゃんを抱いて、貴方の愛の心を一杯ただ赤ちゃんに注いで座って下さい。それだけ。呼吸は全て自然体。それだけで良いです。楽々で座って下さい。

【水源師】

質問があれば答えます。何か聞きたい事はありますか？

【参加者】

「ぶらずに、らしゅうせよ」という言葉があるのですか、どういう事でしょうか？

【水源師】

誰の言葉ですか？

【参加者】

お坊さんの、誰か上人の？

*五代目　１８４４年―１９０２年　尾上菊五郎が　六代目に　諫めた言葉・　京都言葉遣いを現代語で言えば・　役者ぶらずに　役者らしくしなさい。
鎌倉時代の高僧　明恵　上人　－１２３６年、　曰く・あるべきよう
山深い所で、仏教の如説修行を本懐として　日々瞑想と戒律を実践して　当時の宗派仏教と経典で名声をもとめる　僧達を　厳しく批判して、日本で宗派なきの　本来の仏の教を実践するように　説かれて、日本に正法の光を放とうとされた　高僧で栄西禪師と親交された。

般若心経講義　第八講　執著なきこころ、　そのなかの文章で　（　生は尊い　の章「因縁を生かす」ここが　高神　覚昇先生の般若心経講義の中での最大のテーマで、ぶらずに　らしゅうせよ、つまり　あるべきよう　に　尊い生を　「ぶれずに」、生きるべきでは　ないですか？　　と言われていると私は解釈しています。*

６つの学校の人とは反対側にお釈迦様は座る

【水源師】

それはこういう事です。いろんな話しがこの世の中にはあります。「あれが良い、これが良い」とか。そういう風に惑わされずに修行しなさいという事ですけれども、では一体何に惑わされるのか？と。

その昔、お釈迦様が祇園精舎でお話する時に、貴方、ピンディカ(piṇḍika)という祇園精舎の大富豪が、サーバッティー（Sāvatthī）という街のジェータバナ(Jetavana)という公園があります。私達は何と言うのかな？日本語では。それが正式な名前だけれども。結局、お釈迦様が、竹林精舎があるラジギールからテクテクテクテク歩いてそこに行く訳ですね。その祇園精舎のアナータピンディカ（Anāthapiṇḍika）が沢山のお供え物とか食べ物、お花とかね、お釈迦様に持って行って法話を聞きに行く訳です。その時、500 人の友達とか、それからその時に６つの学校が競い合っている訳です。学校と言っても、宗教団体みたいな修行団体がある訳です。今みたいに、インドには９つの修行の学校があります。何とかヨガとか、ハタヨガとか色んな学校があります。心の修行方法の学校。

その時の６つの学校の人と反対側にお釈迦様は座る訳です。一緒に交わらない。何故交わらないかと言ったら、そういう人の話しを聞いたり友にしたら、ブレるわけ。ブレるからブレない様に離れてお話したわけ。その時の６つの学校というのは何かと言ったら現代でもあります。プーラナ・カッサパ（Pūrana Kassapa：道徳否定論者）。この人の唱える事は、深く彼が研鑽した時には何も良い事も悪い事も無しと。だから何をやっても問題無いという様な思想な訳です。「善悪というのは何も無い」という教えの学校なわけです。と言う風な精神的な修行方法だった訳です。

もう一つは、マッカリ・ゴーサーラ（Makkhali Gosāla：決定論者）。アージーヴィカ（ājīvika）という学校で、これは何時私達に悲劇が起こるか解らないと。交通事故でバーンと死ぬとかね。これを英語ではファタリズム(fatalism：宿命論)と、突然何が起こるか、人生とはそういうものだという教えの学校。

もう一人はアジタ・ケーサカンバリン（Ajita Kesakambalin：唯物論者）という学校の教えで。結局これはね、皆さんが生まれて死ぬと、一切この世の中では物しか無いのだと。死ねば何もないと。だから今この生きている実際の生活で栄華を極めてという、そういう思想なわけです。今、とても現代に似ている思想です。ゼロで始まってゼロに帰って、何も無いと。あるのは物質の楽しいこの世界だけ、という教えの学校ですね。

もう一つは、パクダ・カッチャーヤナ（Pakudha Kaccāyana：七要素説）というカッチャーヤナ・サッサタバダ（Sassatavada:永続論）という物質、喜び、痛み、悪、それぞれは混ざるものではないけど永遠に続くものだと。だから、喜びの中に入れば、心は永遠の喜びの中で生きて行くし、もし痛みの世界で過ごせば、混ざる事は無いから、

心はその中で永遠にそこの中に入ると。もう一つは、悪になれば、悪の世界でドンドン続いて行くと。物質の世界ではさっき言った様な世界。こういう教えがある訳です。この世の中の心は一切そうなっているという教え。何かどれを聞いても納得行く様な。

もう一つは、サンジャヤ・ベーラッティプッタ（Sañjaya Belaṭṭhiputta:懐疑論者の一人）。これは、アゴナティスティズム（agnosticism：不可知論）という何でも疑うわけ。「これは本当か、本当では無いか？」と。「これはどういう風に証明するか、証明してみなさい」と。否定主義と言うか、一切にはこういう確定的な決定的な事はひとつも無いという、そういう学校なのです。現代の科学学会とかそういう所は往々にしてあるし、法曹会も往々にしてそういう風な方向でやって、何が何だか解らない様な一般の私達民衆は苦しんでいますが、政治もそうです。

最後に、ニガンタ・ナータプッタ（Nigaṇṭha Nātaputta：ジャイナ教の開祖。相対論者）と。これはジャイナリズムね。ジャイナリズムは一切の悪から離れて何時も清潔にしていくと。これによって精神がどんどん高まって行くと。という、お釈迦様は「これは全て間違いです」と。「こういう教えに入れば、荒野の中でライオンに襲われたりとか盗賊に襲われたりとか、非常に悲劇的な人生にもなるし、将来生まれ変わる時も、決定的なものではなくそういう風な処に入って行きます」と。

仏法僧に深く帰依し、静かな環境で心を持って行けば必ずや浄土に生まれる

ではお釈迦様は何が一番大切かと。「私の教えは、過去永遠の自分の過去生を観た時に、10 の最も大切な教えがあります。」けれども。その 10 に教えの前に、こう言っています。「もし皆さんが、仏に心から帰依した場合には、そういう風な苦しみなんてありません」と。「そして、あなた方がこの世から去る時に、人間界のこの世を終わる時に、必ずやあなた方は浄土の様な所に生まれます」と。「A Deva-form these faithful ones shall fill」という事は、これ浄土の事。

つまりデバ(Deva)と言うのは「神」と私達は訳していますけれど、西洋ではエンジェルと訳しています。「また、真剣に法を求める場合には、また同じ様に人間界から去る時に、必ずやあなた方は浄土に生まれます」と。「そしてまたこういう風に集って一緒に瞑想する方々も、また必ずや浄土に生まれます」と。「仏・法・僧に深く帰依して、そしてその中で一生懸命皆さんがこういう風に瞑想して行くと。静かな所で、山のてっぺんに上がる様な所で、静かな環境で心を持って行けば、必ずや浄土に生まれます」と。この事を言っている訳です。

こういう事が今まで何故言われなかったかという事が、不思議に思う訳です。これは何故発見したかと言ったら、今年、仏光山。仏光山は非常に観音様を尊敬する訳ですね。仏の光。この「仏光」と言うのは皆さん、毘盧遮那の光の事。大日如来。この「仏光」、仏の光そのものは、皆さんが観られる、さっき貴方が観たね、「ニミッタ」。仏の光、ニミッタ。この力で過去も未来も全て観えるし、心の作用もみんな観えます。そういう事

を良く観なさいと。ブレるな！と。

「１０の完全なる教え、仏の教え」

もっと詳しく言うとこうなります。このジャータカの 35 のお話の中で、その昔、お釈迦様がずうっと前にウズラの子供として生まれた訳です。その時に、その森が全部火事になった訳です。お父さんとお母さん鳥は、もう森が燃えて死にそうになったから逃げた訳です。でもゴータマブッタの菩薩の時、その時、羽も育っていないし、体は毬の様にでっかいし、足もまだ動けないと。巣に横たわっていると。もう死が迫っていると。「これはどうしたものか」と。

そしたら、心の中に過去に仏に会っている訳ですね、仏陀に。その事を思い出した訳です。「10 の完全なる教え、仏の教え」を思い出した訳です。その「10 の完全なる教え」と言うのは、この世で皆さんが貧しい人にお布施をしたり、そういう風な貧しき者を助けようという心。また、一体、真実とは何かという求める心。また、慈悲の優しい心。また、生きる事において、今政治がやっているお金のガリガリ亡者とか、人を騙すとか、そういう事ではなく、清廉潔白で生きて行くと言う事。これが本当の真実の生き方であると。詳しく言えばという風に 10 の教えがある訳ですけれども。

という事を思い出した事によって、結局過去仏の力によって森の火が止まったわけです。彼の所から、大体 16m、32m の時に、ボーンと火が水に落ちる様に消え去った訳です。何故この話しが出たかと言ったら、お釈迦様と弟子達が森で修行をしておられました。その森は何時でも毎年火事になる訳です。「これは大変だ」という事で、お釈迦様の所に皆で駆けつけて行ったのです。「どうしたものか」と。お釈迦様は座っている所、そこに行って指示を受けようという事で。そしたら静かに座って、そこには火の気も何も無い訳です。その皆さんはグルッと座った訳です。その回りで。そしたら何と 16m の所には何にも火が来ないし、32m 位の所には火がポチッと落ちて消える訳です。「いやあ、お釈迦様は凄い」と、「何という事か！」という事でこのお話があった訳です。

実は、ずうっと昔々の劫の昔。（どのくらいの劫になるか解りませんけれど、1 劫が 56 億 7 千万か、もっとか？それは私は解りませんけれど。）もっと遠い昔に私がウズラの子として生まれて、その時に心に思い出したのが過去仏の教えだったと。この過去仏の教え。ブレない！ブレないと。この心によって火が止まったと。だから今でも、この 32m には森全体が燃えてもここでは燃えませんと。これが法華経の長者が「子供よ、子供よ、遊ぶな」と。「ここに来なさい」という「法を求めなさい」という。という所が、「ブレずに」という事なのです。

だからね、ここが問題なのです。「ブレずに」って、では一体何をブレずに。それは、原点に帰って、お釈迦様の過去のお話から、実際にお釈迦様が修行した時に「ブレずに」という事を 10 の完全なる方法で、「布施・精進」。まあもっと詳しく後で言いますけれども。もっとこれを翻訳して読めば出て来ますけれど、その事を「ぶらずに　らし

ゅうせよ」と言っているわけです。真実を求めて修行して、そして、ナーマ・ルーパ（名・色）もしっかり観てと。その事を思い出した訳です。アビダンマももちろん確りと瞑想修行して。そういう事を「修行者・ぶらずに　修行者・らしゅうせよ」日々戒律と瞑想で　山深い所で　「あるべきよう」　と言うわけです。その時には、愛の心で人を助けるという事も大切。慈悲も大切。そういう風な、「ブレズ」に真我（愛・慈悲・喜び・静寂）で帰依する事によって、法のある所で　修行した方は全て浄土に生まれます。

海印海潮禅

という事をこの前、海印海潮禅で、私は実は非常に困ったのです。こうして皆さんが修行しても難しいこのサティパッターナから、もっと死の瞑想、愛の瞑想をやったらもっと優しくずうっと行くのですけれども。まあ、2名完成されて、非常に喜んで、来年は観音様の海潮禅でも、と思ったけれども、ある方が必死になって「いやあ教えて下さい！」という事で、「いやあ、どうかな？」と思って、やり方を教えた訳ですね。

この事は、法然上人が浄土三部経に書いています。阿弥陀の国をどういう風に観たら良いかと。それで私はカシナの瞑想法を知っていますので、水と太陽。「ああ、この手法が入るのだな」という事で、第四禅定でやって行ったら、観音様の教えで同じ現象が起こって。では阿弥陀の国を観たら、必ず浄土に生まれる事が決定するものだからと。「それで、良し！」という事で、ちょうど本栖湖のお寺は「仏・法・僧」の揃った凄いお寺でね。いや本物。そういう法のある所で、皆さんが一生懸命、熱心に瞑想した方は、全てこういう今言った事が起こります、という事がこのジャータカの第一に書かれているわけです。

但し、さっき言った様な、学校の何も無いとか、そういう教えの中に入った場合にはもう大変な事になりますと。何も無いと。未来も何も無いと。誰もこういう事は決定出来ないとか、そういう学校の心の修行では何処にも行けないし大変な事になります。佛光山の湖畔で皆さんと一緒に坐禅しましたら、何と巨大な観音様が現れて、グウッと私が観たら、皆、蓮の花中に一人余さず座禅。何と御寺に星雲大師様が来入されあた時に、『南無観世音菩薩』書いておられます。私も今年は全て観音様から始まって観音様。

間違った隊長の教えを聞いて大変な事になった５００人・その隊長はデバダッタ

では南伝ではどうなっているのか？と。書いてあるわけです！お釈迦様が祇園精舎でまず言った事は、「口が蓮の花のようになっている」（微笑む口）と。それで、そういう風に私の言う事を聞いた方は、必ずやそういう風な浄土に生まれますと。それを聞いた 500 人のこの祇園精舎の長者、または友達、それからこの学校に通っている方々が全部仏教に帰依した訳です。ところが、お釈迦様がまた竹林精舎に帰って行って、7～8 ヶ月したら、祇園精舎のアナータピンディカが、「実はお釈迦様。貴方が帰った後、また皆元の学校に帰りました。これはどういう事でしょうか？」と言う事になったわけです。「うん、実は人間と言うのは大体そういうもので、聞いた時にはワッとなって、『そうだ』と言うけれど、その内へこたれて止めてしまう」と。「そしてまた元の教えに戻ってしまう」と。

実は、何故こうなったかと言えば、その昔私は、遠い昔に商人として 500 台の荷物を牛に荷を積んで、1 年に一回、隣町に 120 キロ～150 キロ離れた所に、砂漠を渡って行商に行く訳です。品物を売りに行く訳です。その時に、また同じ商売をしている人が 500 台の荷を持って隣町に行く様になっている訳です。それで、お釈迦様は、「これはどうしたものか？」と。1000 台一緒に行けば、当然大きな問題が出ると。まず、水、食べ物、泊まる所とか色々な事が出てくる。それで、その商売の相手に、「貴方は先に行きたいですか？それとも後にしますか」と。「どっちにしますか？」と。そしたらその人は先に行けばまだ食料になる草もあるし、いっぱい食べられると。そして、また、先に街に付けば自分の思い通りに一杯売れると。そういう風に考えた訳ですね。先に行けば何でも新鮮で良い事ばかりだと。それで「いや、私は先に行きます。」と出発したのです。

ところが、お釈迦様はこう考えたのです。先に行けば、まず牛の車を引っ張って行く轍が出来ないから非常に苦労するだろうと。先に行った者が地を固めて楽々と行けると。次に、水が無いから、穴を掘って必ず水が出る所を探してその水を飲めるでしょうと。又、先に行った人は古い草を食べるから、その後、新しい草が生えて、美味しい草が一杯出て来ると。そういう事で、お釈迦様は快く「では後にします。」と、そう言った訳です。

そしてその時に、最初に 500 のキャラバンが行く時には、勇み良く水の無い砂漠を渡っていく訳です。それを見た夜叉ですね、ゴブリンと西洋では言います。人を喰うのです。今でもこの世には不思議な生命体がおって、そういうものがいる様な生命体を youtube で見ました。影が無い。写らない。それで実体を持っている。まあそれは皆嘘だと。お釈迦様の話しではそういう夜叉がいる。本当にいる。それで、どうなるか解らないのだけれど、人を喰えばそうなるのか？喰わなければこういう肉体なのか？それは解らない。

それで、夜叉が見て、「いや、これは良い食べ物だ！」と。実際そうなのです。私達の体は、他の部族にとっては素晴らしい食べ物なのです。だから、アマゾンのジャングル

では、人が歩いていたら、「おお！食べ物が歩いて来る、美味しそうだ！」と（笑）そう考える。獲物を捕るというのは非常に大変で、凄いのですよ。アフリカでも。アフリカの方がね、獲物の鹿を捕るのに三日三晩走り続けるそうです。タッタッタッタッタと。早くでは無いけれど、後を付いて。この鹿は殺されるのが解るから、逃げて、逃げて三日も走り続けるのだけど、まだ追って来る。それだけ凄い努力をしないと捕れない訳です。

ところが、食べ物がトットコトットコトットコ歩いて来る。「これは良い！食べられる」と夜叉が見て。そういう人は昔、神通がある訳ですね。私達の小さい時は神通を持っている人が沢山いた訳です。何故かと言えば、こういう風なテレビ、飛行機、機械、全然ないものだから。不思議とそういう超能力がある人が時々出ます。私も小さい時、何故か机をパーンとやったら、この手が机の中をすーと通って空中に出てしまうの。という事を考えないから。当たれば痛いという事ではなく、スッとやったらスッと手が出てしまう。その心の持ち方でそうなるのでしょうね。

それで、こういう夜叉がね「いやあ、これは良い」と。これは騙して全部食べてしまおうと。それで、夜叉の街に行って。街があるわけ。全部引き連れて。今度は、皆美味しそうに蓮の茎を食べながら、頭にはいっぱい蓮の花を飾って、体もいっぱい水に濡れている様にして、テクテクテク。「何であなた方は大きな水の瓶を持っているのですか？この先はもう雨が降って水だらけですよ。見て下さい。こういう風に蓮の花からいっぱいあります」と。それを思ったら、このキャラバンの隊長が「そうか。そんなに一杯あるのなら、こういう大きい水瓶を持って行かなくても良いだろう」と。水が無ければ、米も炊けない。食べられない。のども乾く。でもそんな良い所があるかと。すぐそう思って大きな瓶をバーンと割って軽くなって、行ったのです。

ところが、行けども、行けども水が見つからなくて、とうとうへたばってもう力尽きた時に、この夜叉が出て来て全部の人食べたのです。もちろん、そういう金銀ザクザクとか全然関係ないから。食べる事がまず大切だからね。やはりお腹がすく訳ですね。だからもう牛も全部食べてしまって、骨だらけになって、そこで幽霊船みたいにね、人間はいないけれど、船にはそのまま全部あるという話しがよく伝説で聞くけれど、そんな状態でそこにあるわけです。

それで6週間後に今度はゴータマ菩薩が旅をする時に、6週間すればまた草も生えてくるだろうと、新しい草。そして、トコトコトコトコとまた轍も固くなって進んで行ったらやはり夜叉が出て来て、同じ様な格好で。ところが、お釈迦様の目から見たら影が無いのです。昼と言ども、影が見えない。これはおかしいと。花を飾った夜叉の隊長に「いや、私は水を見るまでは捨てません」とそう言ったわけです。

ところが、その部下達は、「いやいや、ゴータマ菩薩様。私が聞いた時にはもう森から新しい緑の草がドンドン出て来るし、その人たちは、水に濡れて花を飾って、蓮の花を食べていましたよ」と。「それでは君は雨の感じがしたか？雨というのはどのくらいの近さで来るか」と。「1キロくらいです」と。「感じた事あるか？」と。「いや、感じない」。「では、雨が降るのなら、雨の雲をしっかり見たか？」と。「いや影は見たけれど、

見えません」と。「そういう雨が降る時は、雷が鳴るはずだ！大体5キロから10キロ。君たち聞いたのか？」「いや聞いていません」と。「おかしいではないか？」と。

それで、水瓶をそのままずうっと大きい重いものを添えながら、皆に話して、但し、森の中とか変なものを食べない、それから水を大事に、無駄に手を洗ったりしないようにと言う事で行ったら、何と、500台の牛も人もいない荷車だけがあったのです。そこには誰も手をつけていない、凄い高価な物とかいっぱいあって。それを安いものは捨てて、そういうものと全部入れ替えた訳です。それで今度、隣町にちゃんと着いた時に、今度は2倍3倍の高い値段で全部売れて、街に帰ってその500人の使用人は全て嬉しそうに自分の家に帰って行ったと。この500人達、間違った隊長の教えを聞いて行って大変な事になった人達が、今ここに座っているこの6つの学校の500人ですよと。つまり、その隊長はデバダッタと。という事を、ブレない様にと。

本当に心からブレずに修行したら、必ずや浄土に生まれ、一切の苦しみは消える

また明日、10の大切なところを明快に書いてあるのだけれど、もう一回詳しく説明します。大体10の項目になるから。そういう事をやれば「皆さん必ず浄土に生まれます。」と明快に言っておられます。その浄土に生まれるという事、本当かな？と。私も責任があるから、チベット教典を見ていたら、やはり阿弥陀様が。それで、蓮の花という事で、これは有名なカシャパ尊者が、蓮の花を見てにっこり笑ったと。「ああ、そうなのか」と。そしたらやっぱりお釈迦様が「蓮の花の様に」と。それで観音様は何時も蓮の花を持って、実際、巨大な観音様が水の上に立っておらる。百済観音みたいに。その蓮の花も、真っ白い蓮の花を持っていたらしい。

あら、この話、ピタピタッと合って行くと。それで、このジャータカの第一を読んだら正に浄土の事を書いていました。だから皆さんが一生懸命修行して、そういう仏法僧のある所で精進したら、必ずや浄土に生まれますと。それで解ったのです。何故、台湾のその仏光山。これ程巨大で人が寄進するのかと。この事を星雲大師が明快に示したのでしょうね。その事だと思う。だから、お釈迦様もこの事を最初から言っているわけです。「心配しなさんな！」と。本当に心からブレずに修行したら必ず浄土に生まれて、一切の苦しみは消えますと。そこでやって行けば、必ずや、今度は涅槃に達するか菩薩行に入るかはあなた方の事ですと言うわけです。

まあ、これでどうでしょう。分かった様で分からない様な。でもこれは教典に書いてあります。チベット仏教の経典、大乗の教典、それからテーラワーダの教典を合わせたら、やっぱり、私の観た事は間違いではないと。だからご安心下さい。そういうことです。もちろん修行というのは大切で、ドンドンやって行くと。まあ、ここで出来なければ、浄土に行ってナーマ・ルーパやってもらうか、法随観をやってもらうか、ただ安心して今のように安心してブレずに、やって行けば良いと。そんなにこうキチキチキチとやらなくても、必ずお釈迦様がお助けして下さると。

というのは、その昔、ウズラに生まれても、昔出会った仏陀の話しを思い出しただけで森の火が止まって生きていると。これはお釈迦様が言っている事で、また500人の修行僧がそこで命が助かった話しで。その話は何処に書いてあったかな。ディーガニカーヤ（Dīgha Nikāya：長部経典）のサーマンニャパラ・スッタ(Smaññaphala-sutta: 沙門果経)の中にあります。

この話。その中をちょっと取ってお話ししたのだけど、だから南伝も素晴らしい。北伝もまた観音様の事をよく説明して素晴らしい。そしてチベット仏教もちゃんとそれを証明する様にパーリ語を訳して書いているわけです。それを「これだ、あれだ」とか言う事より、ブレずに自分の仏法僧に帰依して、ブッダ、ダンマ、サンガに帰依して、そして、一生懸命瞑想して精進して行けば御褒美を頂けます。

何を瞑想するかと言ったら、今みたいなお話しを聞いて、ずうっと考えてみるとか。そして、真理とは一体何かと。また、一緒に瞑想する仲間を如何にして助けるかと。そういう事を、しっかり心に入れて行けば、必ずや、そういう風な浄土に生まれますと。生まれるのですって。生まれますとお釈迦様お話しされております。ブレないで、確りと。

だから6つの学校を完全に否定しています。そういうもの無いとか、あるからとか。お釈迦様は「私の言う事を素直に聞いて下さい」と言っておられます。まあ、そういう事で。

ブレずに！と言うのは、結局、人の為にそして貧しい人を助けてという法則が、ずうっと永遠と続いている訳です。ジャータカ物語で、皆騙されて魚が死んで、喰われて、という風に騙され続ける訳です。私達は。だから、お釈迦様は「早くこの世からせめて浄土に、もう行ける」と。「安心しなさい」と。こういう風に皆さん集まって、自主瞑想会をして、そうして研鑽して行けば、必ずやと保証しておられます。「行けます」とお釈迦様が言われている。ジャータカ物語でただ、そういう風な外道の話しを信じて聞いたり、

あるものが無い様な、ある様な、そういう学説を信じたら、結局今みたいな荒野の中で大変な目に遭うという話しをした訳です。まあそういう事です。

「惑わされず、法に出会ってください」

【参加者】

若者は、西洋の美意識に惑わされやすいと言うか。それで仏教に…。

【水源師】

それはね、私達の世代も責任があるのです。若者が西洋に惑わされ易い。では、何故惑わされ易いのか？どういう所で惑わされ易いのか？誰も発表していないでしょう？マイケルジャクソンは良い歌を出してダンス！「いやあ、素晴らしい！」。ボブデュランは良い歌を歌うし「ノーベル賞、素晴らしい」と。本人はもう「そんなもの関係ない」と「あれ全部嘘だ！」と言っている（笑）。ラスベガスで、自分なりで歌って、そのノーベル賞に無関心でした。日本だけが、大いにメディアで騒いでいるけれど、そんなものなのです。

「私はスターでは無い」と。「ただ自分の心を歌って行くだけ」と。お釈迦様の教えをやっているわけ。我一人行かんと。そんなノーベル賞を貰ったって関係無いと。一緒に皆で歌っていました。騒がない。

だから、肩書きがいっぱいあったって、それであなた方が浄土に行くわけでもないし、次の世に良い世に行くわけでも無いし、逆に悪くなるかもしれない。こういうウズラの赤ちゃんでも火を止めてしまうわけです。お釈迦様だからね、菩薩様だから覚えていて。仏の法という事はこれくらい偉大な事なのです。だから「法に出会って下さい」と私が言っているわけなのです。せめて、私の体験した事を皆さんにお伝えして「そういう道があります。」という事を言っている訳です。

そこに落ちない様に観音様におすがりして、一歩一歩生きていく

【参加者】

厄年について聞きたいのですが…。

【水源師】

まあ、厄年というアストロジー（astrology：占星術）ね。この時にはこうなるとかあるのだけれども。結局、ああ言えばこう言う、こう言えばと全て聞けばそう聞こえる訳です。という風に私達は訓練されているから。それがある程度本当であっても、当たるも八卦、当たらぬも八卦というのが真実で。絶対的にこうなるという事は無い訳なのです。何故かと言ったら、もしここで私の頭が狂って変な事をするでしょう？そうしたら、未来は浄土どころか大変な事になるわけです。だから、そこに落ちない様に、せめて朝晩、観音様におすがりして、一歩一歩生きて行くと。皆さんと仲良く暮らして行くと。皆さんが浄土に入るまで何とか頑張って、皆さんが浄土に入ってしまえば、もう私も大安心で。という事な訳です。

だから、今この世で今回は私ほど栄光を受けた人はいないのではと。もう、具現化してしまったから。観音様のお力はこれくらい凄いものかと。だから何時も観ている訳です。皆さんを、ずうっと天界から。でも、さっき言った様に、良い話しを聞いてもすぐ熱が冷めて止めてしまうわけです。でもまた戻れば良い事な訳です。

法を得ようといくらやっても出来ず、ギブアップして心が振動して預流れ果に

お釈迦様が教えた時にね、素晴らしい良家の息子が来て、私もお釈迦様の側で勉強したいと。まだ 11 歳か 15 歳だから、5 年間位待って、正式に修行僧の仲間に入るにはまだ若いから、5 年間程待って、研鑽して、一生懸命勉強したけれどなかなか上手く行かなかったわけです。それで森に入って、ジイッとワサの時に修行したけれど全然進化して行かなかったわけですね。

それで、森から出て来て僧院に帰って来て、仲間がビックリして「何で止めて帰って来たのか？」と。「何でそのまま修行しないのか？」と。「いやあ、幾らやっても上手く行かないから、今ここに帰って来て皆さんと一緒に暮らしています」と。

そしたら皆ビックリして「これは大変だ」とお釈迦様のところに連れて行って、お釈迦様が聞いたのです。「森に入って修行するのを止めたの？」「はいそうです」「何で止めたの？」「いやあ、幾らやっても修行が上手く行かないから、もう何かへこたれて止めました。」

「いや、実はね。おまえはね、その昔、私がキャラバンで荷を持っていく商人だった時に、お前も一緒だった。」そしてその時に、道をずうっと歩いて行くのだけれど、昼はカンカン照りで歩けない。だから、夜に歩くしか無い。　昼はね、森にテントとかを張って休むのです。もの凄い熱さで、砂もサラサラで絹よりサラサラで。触っただけで、バッタでも振り落とされくらい、滑ってしまう。だから昼は絶対に旅が出来ないから。何時も夜まで待つ訳です。空気が段々落ちて来て夕方になれば、皆さん急いで火を焚いて食べて、起きてそれで夜中中、ずうっと歩いて行くわけです。キャラバン隊が行くのです。

その方向を定めるのは荒野だから。チベットでも、私のバスが荒野で迷ったのです。何も無い。何も無いから、真っ平らでバスドライバーが迷ってしまって、仕方なしに私達は一晩中、高原の 5000m かそこらで、何も無い真っ平らな所で突然止まって一晩を過ごしたわけです。そしたら、空は 3 つの大星雲が重なって見た事がない、もの凄く素晴らしい満天の星空。まあそれは別として。

そういう風に、昔は空を見て旅行していくわけです。船乗りみたいに。それで、このガイド役の小僧が眠りこけた。そしたら、また元の所に戻って来たわけです。ところが皆はすぐもう街が近くだから皆要らない物投げてしまったわけです。食べるものも、何も。重いから水も皆投げたわけです。ところが、着いた所が、朝着いたら、行った所から戻って来るわけ。これは不思議なもので。森の中に入るでしょう。真っすぐ行くつもりでしょう。行って、行って、同じ所に帰って来た。出られない。どんなに頑張っても出られない。

だからカナダではね、森に入ったら死んだと思わなくてはいけない位恐ろしい所なのです。森と言うのは木だけで何も無いと思うでしょう。一杯妖精がいるわけです。色々な生き物がいる。目に見えない生き物が。お釈迦様が言っているその通り。だから

化かされてされてしまうわけです。特に磁石とかそういう物が無かったり、あっても失うのですよ。何かの拍子にパッと。だから絶対的に大丈夫という事は無いわけです。実に森というのは恐ろしい所なのです、本当に。そういうジャングルに入った事が無いから解らないでしょうけれど。

日本は簡単。日本の場合にはね、沢があるでしょう。沢を通って、どんなに苦労しても沢を上がって行けばてっぺんに付けるわけ。てっぺんに着いたら街が何処にあるか降りて行けば大丈夫。冬は解らない。だから日本の場合にはね、小さい山だから、死ぬ事はないのです。沢を上がってトップに行けば必ず行ける。絶対に間違いなく行けます。簡単な事。私はいっぱい体験しているから。沢に入ったら手で水飲めるでしょう？心配なし。

ところが、こういう風にもう少しで街だからと砂漠の中で水を投げてしまって、水が無ければ料理が出来ない。薪も全部投げたから火が点かない。もう一晩、過ごさないといけないのに、何も無いという事で、お釈迦様がずうっと観たら、まだ若い草を観て。「よし、ここを掘りなさい」と。「でもここは水が絶対出ない大地なのに何故掘るのか」と。大体 6m 掘った。でも、水は無い。大きな石が見えて来たわけです。それで、皆諦めて、もうどうしょうもない。これでもう死ぬのかなあと皆思ったけれど、お釈迦様はその 6m 下に降りて行って、耳を付けたら水の音が聞こえる。

それで、その若者に「この石を砕きなさい」と。一生懸命砕いても崩れない、へこたれるわけ。「いや、これを続けなさい！水があるから」と。それで一生懸命やったら、ボーンと水が吹き出して。ヤシの木まで上がってしまったわけ。「お前はこうしてワサを止めて帰って来たけれど、実はお前は、その石を割った若者なのだよ」と。「だから、ここで頑張ってもう一回瞑想しなさい！」と。そういう話しを聞いたとたんに、預流果に入ってしまったのです。ソーターパンナにパーッと入った。

だから、さっき言った様に、お釈迦様の偉い話を聞いても、すぐその後忘れて、デバダッタの方に行って死んでしまうか、こういう風に一所懸命真面目に石を割って、その話しを聞いたとたんに預流果に入ってしまうかと。それだけ努力した訳ですね。この法を得る為に、幾らやっても出来ないと。もうギブアップする時にこの話しをこの比丘に話したら、心の振動が起こったのでしょうね。昔の話でそれで、ボーンと水が吹き出すように預流果に上がって来た。

だから、仏に出会えるという事は大変な事ですよ。だから阿弥陀の国に行けば、仏、阿弥陀の仏から直接教えて貰えるという凄い事なのですよ。法を教えて貰えると。生きた仏から。これは大変な事。でなければ弥勒菩薩様を待つくらいしかない。

「禅即浄土」「印光大師」

【参加者】

今の話で、阿弥陀様はまだ存在していて、だた、死なないと会えないのですか？

【水源師】
会えない。無いと言えば無い。有るものでも、無いと思えば無い。生きていても会えますよ。だから、禅即浄土。禅を深くやって行けば浄土に入るから、もはや、その時点で阿弥陀様に会えます。

【参加者】
法然さんとか、晩年に実際にお釈迦様を観たとか。

【水源師】
そうそう、そういう事になります。というのは、一心不乱に名号を唱えて、それも一つの方法で。でも普通の人はなかなか出来ないでしょう？時間もないし。それで、仕方無しに、観音様から教えて貰った…。これはもう浄土決定だったら観る、観ないは別として。また、一人でやってもその国は観えるのだから、やって行けば。まあそれで、確定するから、その人達も。してもしなくても行く事になっているから、安心して貰って。
摩訶不思議な話でしょう。聞いた事が無いでしょう？でも、法然上人の体験があったから、そういう現象が同じく発生したから解るわけです。法然上人の、そこまで努力しなくても、観音様の法でもって、簡単に観える方法があるという事を教えて貰ってね。一旦観てしまえば、もう浄土決定するのだけれども、皆座っていたら、パッと観たらもう浄土に入って行くから。
だから、印光大師の禅即浄土。この方は、善導大師の直系なのですね。凄い方。この前、シンガポールで死んで、2300 の舎利を出した方で、大変な方です。だから、そういう事も日本には伝わっていないわけです。その人のお寺は凄いですよ。この方が今のシンガポールを作った方で、この国が IMF 金融為替でジョージ・ソロ氏の為に破産をさせられた時に、彼のお寺をパーと開けて、貧しい人達をお寺にドンドン宿泊　させたのです。そしてまた沢山集まったお金をカソリックのお坊さんに渡して「病院を作ってくさい」と。今 4 つの大病院になっています。だから、この方が死んだら百万のシンガポールの人が、皆泣きながら見送ったと。今のタイの王様みたいに。日本ではこういう人の話が出ないわけそこが大問題。シンガポール行ってみて、もの凄く有名だから。博物館もありますから。この人が説かれるのは、loving-kindness(慈愛)という。結局、観音様の事。「観音様の心を持ちなさい」と。

【参加者】
以前、シンガポールに駐在していたので…。観音様は凄く…。

【水源師】
巨大なお寺があるでしょう。あそこのお寺の事です。数千人の方がそこにボランティアに行くでしょう。そこです。

【参加者】
シンガポールの１ドルが八角形なのも、たぶんその方のアドバイスで。

【水源師】
そうだと思います。その人はアストロジーもやるわけ。さっきみたいに。結局、道教も深く研鑽しているみたいで、その昔、中国で立派な阿闍梨はね、一行禅師なのですよ。この方は地球儀（３６０，０００中国尺｛３０．０８ｃｍ｝ｘ３６５．２４日＝３９５５１．１１０９ｋｍ、実測値極点円周４０，００７㎞、メートルは　４０，０００ｋｍで作成されている）も作るし、天体も観測するし、スーパー科学者だったわけです。それで、仏教も良く知っているわけです。だから王様が「未来を予言してくれ」と。それで、ピタッと当てるわけです。だからそういう法力を持っている。国を助ける為に、人の命を助ける為に未来を観るわけです。というのが仏法の真髄だけれども、なかなかその域には達しないわけ。だから全ての命を生かすと。戦争を無くして、平和共存で仏の教えに出会えば、これほど素晴らしい事はないわけです。

蟻さんみたいに生きるのか？心の修行で死んで行くのか？そこを考えて下さい

ところが、今はそれを徹底的に破壊しようとしている。今の世から出て行っては困るように。その魂がこの悪世の世界で、何時までも奴隷みたいに働かせて。今は、人間にもうチップス（マイクロチップ）を入れ始めているからね。ある会社では、アメリカでは。このチップスを入れなければドアが開かない。ドアが開かなければ働けない。東芝さんだったかな？artificial intelligence computer(人工知能コンピューター)をここに付けて、全て記録して。コンピュータが全部解析して「何をしなさい」と。そうしたら成績が上がると。成績が上がるのは、会社の為の結局蟻さんみたいに生きるのか、自分の心の修行で山奥で木こりとして死んで行く方が良いのか、そこを考えて下さいと私は言っている。

結局ね、数千億円持ったって何処にも行けないのですよ。下手したら、もう凄い暗きに所に行くかも解らない。今、アメリカでは大変でしょう。堂々と皆嘘つきまくって。メディアも徹底的に嘘をつきまくって。毎日、三人は警官に射殺されるからね。白人だろうが東洋人であろうが、ボンボンボン。アメリカ中で。今、皆、アメリカでは自衛という事で、拳銃、鉄砲を持っても良いわけ。そういう憲法があるわけです。政府が将来必ずや、あなた方を攻撃して来るから、全市民は鉄砲で自分を守る権利があるという事を John　Adams（米国の第２代大統領）が憲法２に書いているわけです。憲章に入れているから、それで皆自衛出来るのです。

という風に、民主主義が狂った場合には大変な事になると、もう予言しているので

す。その悪の原因は金融にあると。金融政策にこれから失敗するから、必ずや戦いが起こると。だから前に説明したでしょう？どうして戦争が起こるかと。まず、経済を破壊する。経済を破壊したら必ず戦争が起こると。ヒラリークリントンが 2014 年辺りか、国務長官やっている時に、中国をミサイルで囲むと。核戦争。そういう話がドンドン、ウィキー・リークス（アサンジ氏　エクアドル・ロンドン大使館に幽閉）から出始めている。

今はまっしぐらにその戦争に向かっているけれども、但し、皆さんが本当に法を求めて行けば、これが未来は決定的ではないのです。決定的ではない。幾ら頑張っても。ここの事をお釈迦様が言っているわけです。だから森が全部燃えても大丈夫だと。だから、昔の何処の学校だったかな、マッカリ・ゴーサーラ・アージーヴィカ（Makkhali Gosāla ājīvika）という学校は、こういう悲劇で私達はどうしようもないと。あきらめ、あきらめると教えたわけ。ところがお釈迦様は「そうではない」と。一匹のウズラであっても、過去の過去仏の教えを思い出して森の火を消したわけです。だから、仏法に出会うという偉大さ。もう想像を絶しますよ、本当に。どれだけありがたい事か。という話が何故日本に出ないかという事が不思議なのです、不思議。

でも、沢山の方々がジャーナに入ったとか、沢山の方々が何か悟ったとか、こういう話が出ない。さっきの、ブレないで、というブレないという中身を説明している。確かにブレない。では、ブレない真髄の所は何処なのかという事を説明している。だから、ブレないで仏法僧に帰依して真面目に精進して行けば、次の時は、この世から離れた時には浄土に生まれて、強烈な偉大な仏の阿弥陀様から直接教えて頂くと。私がその昔、18 世前にカクサンダーブッダの白牛になって背負った時でも、これだけの栄光を受けるのに。これを法随観で観る事が出来る。私が個人で言ったわけではなく、全部チェックされます。過去をどのように観たか？未来をどのように観たか？という。

だから皆さんの事を観た訳です、何処に生まれるか。という事がお坊さんの本業なわけです。それは、お墓を作って、供養する。それは大切です。でも、死ぬ前にこういうお話をして天界に送る方がよっぽど素晴らしいではないですか。後で死んで、数千万の戒名付けたって、それが本当かどうか解らないでしょう。もし私が触って「あら、変な所に行っている！」となったらどうなりますか？私がミャンマーで、この人天界に上がりましたよと。奥さんは信じなかった。家族は、この方がこうして死んで行ったと。やっぱり天界に行ったと。

だから、法を持つ偉大さというのは底知れない訳ですね。でも、これを如何にして人の為、社会の為、あらゆる生き物に対して還元して行くかという事がもっと大切。でなければ、芥川龍之介氏のクモの糸の物語になる訳です。ここには慈悲が無い。だから、アーティフィシャル・インテリジェンス（AI）の BOX を付けて、皆、実験されているわけです。

悲劇的なのは、ニュースで見たけれど、電通の若い人が、一週間 105 時間働いて 10 時間しか寝ないとか。この実態は政府が解っているはず。88、86 歳になったら年金で暮らしていけない訳です。これも解っているはず。第二次世界大戦でどれだけ人を自

国民を殺したか。でもまだこれをやるのかと。という事なのです。ヒラリー・クリントン氏が中国にミサイル方囲していると。どういう事か解っています？全日本土は核ミサイルを持っているという事で壊滅。Ｅメールで出て来たのです。私が言った事ではない。ウィキー・リークスにもちゃんと出ています。

理論をはるかに超えた教え・仏の智慧

でも。でも、仕方が無いから自分で一所懸命、仏法僧に帰依して、そして法を持てばこの法によって家族、友人を救えるかも解らない。この事です。お釈迦様が言うのは。この事は、今始まった事ではない訳です。永遠にして続いている訳です。この世はこういう事ばっかりの繰り返し、地球のサムサーラ輪廻。ところが普通は強烈なジャーナー（３時間半）を持てないから観えないでしょう。お釈迦様は過去を観る方法を教えてくれて「ああ、バカらしい事を何回も何回も何回もしている」と。観えないから何でも来年は新しい事が発生すると。ところが、私が観たら、昔の繰り返しだけです。演劇とかそういう事の、また繰り返し、繰り返し。繰り返し。若い人も、波の様に同じ様な事をして同じ様に年を取って行く。衣装が変わっても、また昔のモダンガールという大正時代のそういう事を今は、新宿ガールズと奇抜な衣装をまとって。今はその繰り返しみたいな。

ところが、そういう風な浄土に行く、または弥勒菩薩の来世で修行すると。これ程に素晴らしい宇宙の栄華はないです。私がその昔、言ってはいけないのだけども、天界の宮殿に住んだ時、それよりも凄い事です。この法を得るという事は。殆ど問題にならない。この地上の考えとか。だから、仏の智慧というのは、人間が考える事が出来る最高の頭脳でも、遥か遥か遥か彼方の事。これが実態の事だから。理論を遥かに超えた教えで、本当の事なのです。

という事が、解らない様に、解らない様に、解らない様にして働かせるわけ。それで働かせたら私は大将だから頭が良いのかな？と。これも全て因縁によって輪廻して行くわけ。因縁に因ってだけ。だから最初のデバダッタの隊長が自分の部下を全部殺して、自分も死んで行ったと。また、お釈迦様の時代にデバダッタが出て来て、僧院を半分にして、彼自体は地獄に落ちて行ったと。まあ地獄に落ちても、お釈迦様が言われるには、これは、いじめる事ではなく、結局そういう苦労する必要がある学校でまた出て来て、またチャンスがあると。これほど深い慈悲深い教えは無い。

特に、皆さんがこうして集まって、浄土に行ける訳ですよ。浄土に。私も言ったでしょう。数年前、南方から宝生仏が出て来たと。南伝では関係ない話だけれど、実際にはドーンとお金が保険会社から降りて来てちゃんとクティが出来たわけです。この話も合うわけですね。過去仏の教えが浮かんで、その力が永遠に生きているわけです。この仏の教えという事は凄い事なのです。

ところが今は、「仏はこうだ、お寺はこうだ」ともう皆さん解っているわけですね、これは止めなさいとお釈迦様は言った。もう本を見て皆解るわけですね。では皆さんを救って、せめて皆さんが素晴らしい、災害の無い愛の世界を作れば良いのに、全然しないからね。ああだ、こうだと人間の悪口を言う。だから本当にこれから女性の時代になるのか。男が頑張ってもう一回、本当にこの仏国を創って行くのか、皆さんの心次第な訳ですね。心がしっかりと何を言われようと、若い男の子が一所懸命、石を割って、水が出て来たと。という事を頑張りなさいと、お釈迦様は言って。必ず応援がありますと。

極限の小さな中に全宇宙がスポッと入るという事を体得する

【参加者】
それが精進ですか？

【水源師】
そうです。それが精進。諦めないと。ところが精進料理でそれが精進になる（笑）。話が違うわけです。

【参加者】
ジャータカとか仏教の話は皆、過去の記憶とかそういうウズラの赤ちゃんの記憶とか、それは心と言っても良いと思いますが、一体その記憶というのは何処にある？どうなっているのでしょうか？

【水源師】
観自在菩薩が「行深」、サンカラを深く観たと。深く、観る、その心なのです。だから、夢日記を付けて下さいと。心を探しなさいという、そこなわけです。心というのは、全宇宙でもスポッ！と入れるくらい大きなものであり、又、何処にも見えない極限に小さいものでもある。

【参加者】
無量の過去、無量の全ての記憶がある訳ですよね。

【水源師】
もちろん。という事を、この前の合宿で説明したでしょう。結局、ブラックホールにこれをポッ！と落すでしょう。永遠に消える。でもこれは物理学的には御法度なのですね。これをポンと投げたら、そっちに行くか、その影に行くか、これがバラバラになって他の分子に消えるか。エネルギー永遠の法則があるから、絶対に消えるという事

は、ブラックホールの中に入って消えるという事は、もう物理学が成り立たない。ではどういう事なのか？と。これを投げた全ての情報が宇宙の外の彼方にちゃんと記憶されていると。それ以外に考える事は出来ないというのが、現代物理学の常識なわけです。

それは、ピッタリとお釈迦様の言う通り、全宇宙どころか、外の宇宙体もここの中にスポスポと入ってしまう。何故かと言ったら、五次元の世界を説明したでしょう？1カラーパですよ。極限の小さい中に全宇宙がスポッと入るわけです。全宇宙が入ったら無量のカラーパがその中にあるわけでしょう。また入れられるわけ。夢。そこのところ。

だから、体験すればね、何か朧気ながらに感じるでしょう。観なくても。私が言っている事は夢を見ている実体験から。だから、修行とはこの事なわけです。頭のここではないわけ。だから、実際に観て下さいというわけです。観られなくても諦める事は無しと。もうこの前の仏光山で発生した事で、私はもうこの日本に来なくても大丈夫かなと思うくらい喜んでいる。まあ、そういう事で。まあ、もしニミッタを1時間くらい伸ばしてくれたら、過去生とか来生を観得る法を伝授する事が出来ます。だから、そういう事を本当に知りたければ、またその方法もあります。それは、16ある智慧の第9か10に入るはずです。そうゆう方が出現することをとても心待ちにしております。

心の修行がなければ結果的には幸せが感じられない

【参加者】

先生がおっしゃる1時間のニミッタというのは、どの様な状態？

【水源師】

あのね、本当は法随観は3時間か4時間位の力がなければ、これを強いニミッタと言います。この力によって心の奥底、阿頼耶識も観て行くわけです。ところが、大体限界が1時間以内でそれ以上行けないから。ではこの方法を使って、せめて「過去」、「未来」を観て確定的にお釈迦様の教えを体感すると。という事は絶対的な帰依が発生してしまうから。それで、ジャータカ物語も深く今度は解り始めます。

【参加者】

それは、かなりしっかりとした、はっきりとしたニミッタと言う事ですか？

【水源師】

まあ、あれば素晴らしいけれど、だからインタビューが必要な訳です。自分で体験者からのどういう状態にあるかの状態で行くしかない。本には書かれていないです。

【参加者】

こういう所で、今日は座って気持ち良いなという風にはなりますが、生活に戻って、疲れやすいのかなという感じて、体がすぐ疲れて、ちょっと気になるのが、家の上に携帯の会社の電波があって、それが原因なのかな？と思うのですが…。

【水源師】

それもあると思いますね。私が森の中で一人で暮らしていて、電波も何も無い所で暮らしたら、心はこれほどすっきりする事は無いです。ただ、生活は滅茶苦茶に苦しい。コーヒー一杯作るのに、薪を割って、焚いて火をつけて(笑)。ところがポーンとボタンを押したら火がつくでしょう。でも、そうしてコーヒー一杯作って、飲んで、その生活する過程の中で、自然の中で生きるというのはこれ程苦しいけれど、またご褒美もあるという事が解ります。

だから、ミャンマーのお坊さんは一日ピンダバーダで行って、それ終わったらやれやれと、帰って来て、食べて、それが修行なわけです。というだけのものをピンダバーダの中で得て来る訳ですね。という風な時間の余裕があるわけです。

だからもうアメリカではここの手の平の間にチップス入れて、小さい。それでなければドアが開かないという。それで全部コンピュータに記録されるわけです。何しているか、トイレに行くか。トイレに行くのも一日何回行ったかも全部計算されて出て来るって。私は木こりか何かになって、静かに暮らします（笑）。

という風に、やっぱり政治家はこれは止めさせるべき。結局、人間というのは生きて、心が修行出来て。心の修行がなければね、結果的に幸せが感じられない。何故かと言ったらね、朝から晩までダンスをしたって疲れてゲンナリですよ。その為に一所懸命働いてお金つぎ込んでまたグッタリ。そのうち段々衰えて、私みたいな年齢になればね、もう何もしたくなくなって来る。ただ、幸せは静かに座って、「ああ良いな」と。ああ、若い時から座っていて良かったなあというご褒美が来ます。

それは、スポーツは素晴らしいですよ。人間の素晴らしいスターを見る事であって、自分もそういう風に努力して、体も幸せになれば良いけれど。まあ、そういう風に皆がなれば良いけれど難しい。ところが、ただ静かに椅子でも座り、また寝転んでも良いと。心を静かに観ると。これほど簡単で素晴らしい幸せは無いですよ。それがね、若い時は解らない。飲んで、喋って、車をバーッと飛ばして他に行って、それが楽しく観えるわけです。

丁度メリーゴーランドなわけ。メリーゴーラウンドでね、降りられないと解ったらパニック起こしますよ。それが現状なのです。歳とってね、それが止められないわけです。止めたらおかしくなる。それは野球場に行って「勝った、負けた」スカッとして良いと。それが止められなくなる。お金はドンドン出て行く。ドンドン体は衰える。メリーゴーラウンドから降りられなくなっている。只一つ、病になる事。病気になればもう動かないから、もう行かなくても良い。心が決定してしまう恐ろしい世の中なのです。

心は、現代のスーパーコンピューターよりも凄い。何かちょっと、解りますか？記録を全部すると。だから、私がパオに行って観た時に、巨大な映画館の中でね、全てのインフォーメーションが、タッタッタッタ。一つ一つの私のストーリーがダアッと観え始める。スーッと全部私の過去も観える。それではダメなわけ。ジャンプするから、話しにならない。それをずうっと続けて行く事によって、どういう因縁が発生するかと。全ては因縁であるという事が解るわけです。でなければ、あっちこっちの映画館で遊ぶだけで、結果的には「ああ、良いストーリーを見た」と。無駄な事なのです。ただ正しく観るのには、そこが法随観の想像を絶する法なわけです。

お釈迦様の正式な法随観、病気を治す受随観　そして守護神

【参加者】

十二因縁を観ると言う事？

【水源師】

そうです。そこが深く観えるわけです。だから法華経を読むには、書いてある「十二因縁を観て下さい」と。誰もしないもの。ただ何時の世にか、この因縁によって法随観に出会えるかもしれないと。それであれば、次の世の弥勒菩薩が出て来る時に、その時に教えて貰うという因縁を作るというのが早いという事で、一時、弥勒菩薩様を一所懸命願って、お寺を建てて、そういう因縁を作ったわけです。もっと早いのは、阿弥陀の浄土禅をやるか、またはこういう風に、法然上人が観たこの手法の中の「海印海潮禅」をやれば、ボーンと行ってしまう。

という事が、今まで日本で発生しなかったのか、教えられなかったのか、どういう事か解らないけれど。結局、浄土を観れば必ず浄土に生まれるという事は、どの浄土三部経にも書いていますから、その見せる方法があるという事で、これが発生している。私もビックリ、ここまで観音様の力は凄いのかと、驚嘆。だから仏の力と言うのは、計り知れない。計り知れない。だから、間違っても「仏がこうである」とか、そういう事よりも、一所懸命静かに修行して下さい。だから「あれは良い、これは良い」とか言うよりは、まず自分で修行。明日「10 の完全なる心のブレない方法」を一つ一つ説明します。

【参加者】

私、病気をしてしまったのですが、検査しても解らなくて、瞑想くらいしか出来る事が無いというか。私、瞑想するとどうしても道教っぽいあれになってしまうのです。瞑想しているうちに、だんだん時々自分の歯が観えたり、鼻が観えたり、脳も観えましたし、動いている心臓も観えましたし、水源先生の法話に書いてある事に近いのかなと思いながら、そうこうしているうちに、まだ上半身の骨格が殆ど全て観えて。

【水源師】

スケルトン瞑想すれば全部観えます。正式に段階がある訳です。それを正式に法随観をやるのであれば、アナパナでニミッタを強く持つと。それで正式に入って行くと。そうでなければね、さっき言ったみたいに、映画館みたいに色々なストーリーがあるけれども、それを繋いで初めて因縁という事が解る。その因縁という事が解って、今度はウパーダーナ（upādāna：取）。一番大切な「どうして生まれるか」という事が究極的に観えて来るわけです。それで、何故生まれるかという因縁がそこでピターッと繋がって、今度は未来がどうなるかも解るわけです。

そこが大切な事であって、神通を使えば、体の中に何があるか、瞑想していけば、ピッピッと耳の中に何があるのか皆観えます。それは不思議な事では無いけれど、X線みたいに観えます。だから、それを正式に法随観とかそういう風に使うには、お釈迦様のそういう正式な方法でやっていけば間違い無いけれども、そうで無ければ「観えた」それで手品みたいにおしまいで、使い物にならない。そこが問題で、結局、私が言うのは原点に戻って、まず、丹田を鍛えて、そしてニミッタの時間を長くするか、そこから始まっていく。

もし、病気を直すのであれば、受随観をやっていけば、全ての病気は治るけれども、それは涅槃に達する手法であって、病気を直す手法ではないわけです。それがね、副産物として体が完全に治ってしまう。そのうちに体が全部光り始めます。金のように。観えます。

【参加者】

瞑想していると、体が何か揺れてしまうんです。

【水源師】

それはね、天界の方があなたの病気を直す守護神かも解らない。それを神とか、西洋ではエンジェルと言いますけれど、天使とか。そのお力が入っているかもしれないから、尊いそういうエンジェルとかデーバとかを決して貶さない様に。お宮さんに行っても、そういう尊い助ける神、エンジェルを崇めなさいと。貶すものではない。全て生きているもので、森の中にも沢山の妖精がいる訳なのです。見えないから無いと言うでしょう。でも良く瞑想すれば観えます。何をリクエストするか、ちゃんと見せてくれます。「ここに何何して下さい」と。

ただ、私達はこうして話すでしょう。セルフォンで、北海道で話しをしたら、生きている事は解るけれど。でも、テレパシーでやった場合は、嘘だとなるでしょう。でも、こっちの方がもっと正しい。津波が来る時はここで解るから、ドキドキして。だから動物は皆、山に逃げるけれど、人間は皆海に走って行くわけです。本当ですよ、本当に。

福島の時にね、あの時に、一旦山に逃げたわけです。それが不思議と海に戻って皆死

んだ。それを、一体どうなっているか東北大学の先生がセルフォンを皆持っているから解析しら、解析出来るみたい。一旦逃げたのに、又戻って死んでしまう。不思議な事が…。不思議な、不思議な。だから寿命帯か因縁なのか。という事をNHKでちゃんと見ました、それで不思議だって言っている。「不思議」でおしまい。真偽は解らないわけ。人間の心の真理が、助かるのにわざわざ死に行ったわけです。一人二人ではない。何万人と居りましたよ。解析したら。集団作用というのかね。一人がワーと言えば、皆がワーと言って。一人がウーと言えば、皆がウーと下がっていく様な、そういう訳の解らない魔の力にバカされてそうなるのか。

というのは、Youtubeで見たけれど、本当かどうか知らないけれど、家がと流されて、人がもう生きるか死ぬかという時に、水の中から白い化け物みたいな何か虎みたいなものがブワーッと上がって来て、スッと消えてしまう。だから、そういう生き物がいますとお釈迦様が言っているけれど、たまたまカメラが良いから、今はカメラが良いから化け物も撮れるけれど、昔は「ない、ない、ない」でおしまい。

でも「全ての足の無い生命体でも愛を与えなさい」と。だから、愛は広く永遠に、という不動の慈悲の世界も体験させる。今回、凄い事です。来年、皆さんも頑張って、合宿何とか来て、私もこの老体にムチ打って何とか(笑)、日本にやって来ようと思うけれども。

まずは一体何が本当なのか？深く研鑽して下さい

【参加者】

私は本を読んで我流で瞑想をしていたのですが、コツと言うかポイントがあれば教えて下さい

【水源師】

まず、ある凄い哲学者が、人間は風に揺れる葦と言っている。頭は自由なわけ。でも根っこは動けないわけ。私達は一生、こういう風に色々な情報で右往左往しているわけです。だから、お釈迦様は「まずそれを捨てなさい」と。まず、どういう風に捨てるかと。一切の教えはまず置いておいて、静かに座って呼吸だけを観ると。もしこれが出来なければまず鼻から息が入る、出るだけを観る。これだけ観ても、呼吸の空気の実態と体が一致して精神がそれを観るから、「身・口・意」になります。それだけでも、病が消えるはず。

実際にタイの方が6ヶ月で寿命おしまいと。ジャーナリズムを修学していましたがそれで、カナダに来て3年まだ生きて、何していたのと聞いたら「あるお坊さんからただアナパナサティだけ教えて貰った」と。そのままずうっと生きています。医学的には6ヶ月で、難病中の難病と言っていました。旦那さんがカナダの方で何とかしてカナ

ダで直そうとしたけれど、結局方法は無いと。それで、この人は何とかアナパナだけ続けて、そしたらちゃんと動くし「体はだるい」と言いながら。その後見えないけれど、上手く行ったのだと思います。ただ仏を持って来て、ここで１週間拝んで下さいと言って、後は自分でやっているみたいです。

そういう事で、まず常識は必要だけれども、それに捕われずに、一切「本当の事は何か」という事をお釈迦様は求めて下さいと。一体何が本当なのか？生きるという事はどういう事なのか？何の為に生きているのか？とか、深く研鑽して下さいという事ではないでしょうかね。

【参加者】

座り方とか、大丈夫ですか？

【参加者】

半跏趺坐でそれは同じなのですが、ちょっと頭でっかちで色々と考えがちで…。

【水源師】

いや、それが社会で、そう言う風にさせているわけです。昔は考える事がないから、スカッと上手く何でも行ったのだけれど。それでまず基本としては、お腹を膨らます。それで肛門を閉めて、1、2、3、4、5 秒と止めて、それからゆっくり放すと。これが生命体の基本の力になります。ジーヴィタ（Jīvita：命）という力が発生して、これがなければ死にます。これが無ければ、雪の中で命絶えるとか、この事なの。これがあれば雪の中でも生れるようです。これはチベット仏教で「ドモ」という手法で、マイナス 20 度でも 30 度の熱さに体をして、氷を溶かして、皆パンパンに衣を乾かす。それしか無いわけです。チベットには木が無い。燃やす材料が無い。だから、チベットでは燃やすとか火を使う事は最高の贅沢なのです。

だから、それでジーヴィタの力を強くすれば、5 分 10 分の瞑想は非常に楽に出来ます。だから、そこからやって、後はアナパナをやっても良いし、そういう風に無理しないで、楽しくやる事がコツだと思います。続けるという事。頑張って 10 時間やっても、次の日止めたら（笑）。やっぱり、5 分でも 10 分でもまあ、１ヶ月に 5 回、10 回でもやる事が大切であって。１年に１回、10 時間、ちょっとこれはね。まあ凄い事だけれど。やらないよりは良いけれど、それよりは、１日１分間。疲れた時はお酒飲んでコロッと寝て。体力が出たらまたやるとか。

諦めない事ですね。休んでも、一休み、一休みしながら、心が和やかに軽くなっていく方向で進めば、必ずや良い結果が出ます。私の体験からです。まあ、こういう事を言ったら沢山の和尚さんに怒られるけれど、私はどうせもうあまり良い瞑想者ではないから、遊びながら楽々と。やっている事が大切ですね。

観音経とデバフォーム

【参加者】

色々なお経がある中で、何故観音経なのですか？

【水源師】

いや、それがね。今年はずうっと観音、観音なのですよ。全て。それで、たまたまこのお経を観て、いやあ、本当に。『念波観音力　釋然得解脱』。これ、発生した事だと。私。それでまた『念波観音力　波浪不能』と。これが前に言ったようにベトナムの人がベトナム戦争で逃げる時に、水も何もない。ただ願ったのは観音様を唱えてと。それで無事にインドネシアに着いて、それでカナダに行って、この人がルンビニにネパールのルンビニに、ルンビニ公園をUNの資金で創ったわけです。その後にそこに、日本のお寺とか世界中のお寺があるけれど、その方なのです。私より若い方です。

また2250年前に、ここだったかな『念波観音力　刀尋段段壊』というくだりがあるけれど。それは、実際に妙善王女というホータン国の王女が王様から処刑される時に、刀が三回、バンバンバンバンと折れた。落雷で。日蓮上人　もそうなったという事だけれど、実際にこの人が補陀落観音になって、命を絶つ時にそこに行くと。たぶんこの方が現れてくれたと思うよ。この方は何時も水の上にすうっと立つ方で、巨大な方で、ウワアッと立ち上がって来まして。

という風に、何故か因縁があって、私は今年はこれを使おうと思って、この手法を行ったらこういう凄い結果になった。だから全て因縁で、ここ(頭)では無いわけです。もちろん私は観音様が大好きですよ。ご利益を得るというよりは、親しみがある訳です。私にとっては。そういう事で深い因縁がある訳ですね。阿弥陀の国がニミッタを使って観えない時に、非常にショックを受けて、どうしたものかと。それで長い事やったら、観音様が現れて連れて行ってくれて。「阿弥陀の国はあります」と言う事で。それで、今みたら、お釈迦様は「行けますよ」と。ちゃんとこれやれば。これを今の世で教えてなかったわけです。これが驚くべき事。お釈迦様の最初のジャータカの第一声がここだったのに、これが日本に伝わっていない事が驚きです。

【参加者】

浄土の事は何て英語で言いますか？

【水源師】

英語では（浄土・pure land）どのお坊さんも知っているはずです。でもこれをそういう風に観るか観えないかは修行によります。何故かと言ったらこうです。仏に深く帰依する人は、仏を絶対的に帰依する人は、一切の苦し・みが起こりませんと。また、死ぬ時には、この体が亡くなる時には、もうまっしぐらに、デバフォーム。デバ、エンジェルフォーム。もう人間の体ではない。天界の体になると。浄土の事。浄土の事。だ

から、印光大師が「禅即浄土」となるわけ。それでお釈迦様が「精進して瞑想して下さい」と。瞑想する方法は何によってブレないでするかをちょっと説明したわけ。

だから、天界に行くとは書いていない。デバフォームと。天界の体になると。実際にそこに行けば、天界と一緒なわけです。食べ物は自動的に来ます。欲しいものは自動的に来る。ただ、ここでは修行だけ。天界ではダンス、楽しい事ばかり。だから修行は出来ない。ただ、第四界の兜率天に行けばまた別。だから今は無い、無い、無いで見えない様にしているだけ。「嘘だ、嘘だ」と。では何が本当かと。一体この世に何が本当か、誰か完全に言えますか？民主主義のアメリカのご本尊が今大変でしょう。嘘のやりっぱなしで。

では、カソリックでは「死ねば何も無い」と。天国か地獄かPurgatory(煉獄)、それしかないと。間違てる。という恐ろしい世界に私達は住んでいるわけです。カソリックだけではなく、イスラムも一緒です。ユダヤ教もはっきりしない。はっきり言わない。ただ、ユダヤ教の死ぬ時には、イスラムも一緒だけれども、すぐに全部裸にして、衣に包むわけです。それも、結局、ジーザスの陰影だと言われる、イタリア、トレノにそういう幕があります。そういう風にするのですが、その時に西に向かって「アミタ」と言います。という事をマザーテ　レサが言っていました。

だから私達は、そういう風な情報の繋がりを学者が説明しないし、解らないし、私達は。ただ瞑想して私は聞くから「あら面白いな」と。全てナイルの西対岸、彼岸に王様の墓があるわけです。彼岸に達すると。そういう言い方をする訳ですね。ファラオが死ねば、船に乗って太陽に向かうと。次の世に行くと。太陽は熱を出すけれど、あれはトランスポーターで外の世界に行けます。

だから、全く私達は無知の世界で生きているわけです。だから、何でもありとなったら、さっきお釈迦様が説明したように狂ってしまう。だから、お釈迦様ほど偉い大先生はいないわけです。それを真剣に観て瞑想して解いて行ったら少しは理解できますけど。ところが「お釈迦様、こうだ、ああだ」と、私達が仏はこうであるとか、このようであるとか無知の頭で話し始めたら、とても恐ろしい世の中になってしまう。将に魔の世界になります。

つまり、教典によって、世界の情報がピッタリ合っていけば、科学的に、社会的に、経済的に。これは合う事になる。一つだけ合って全然合わなければ、これはお話にならない。お釈迦様の事を本当に解ったら、未来が予言出来なかったらおかしいわけです。実際に予言をするわけです。だから、シンガポールの印光大師様。凄い方で。彼が未来を観てちゃんと政治家に知らせるのだから。まあ、仏法というのはそれほど凄い事なのです。

【参加者】

印に光ですか？

【水源師】

はいそうです。英語版は loving-kindness というお寺が英語では。そこに言えば経本を送ってくれるはず。そこのお寺に行けば図書館があって、そこで買う事も出来るけれど、私が買おうとしたら、その図書館の人が「ここに来なさい」とお寺に連れて行ってくれました「同じ本がお堂の中にいっぱいあるからここから取って行きなさい」と。もの凄く親切なのです。無駄な事をさせない。

マンダレー　ミヤンマー

水源禅師法話集 70

(2016 年 10 月 15 日　東京法話会)

2018 年 3 月 30 日　発行

編集兼発行　一乗禅の会